麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属　臨床検査技術学科　　職階　教授

氏名　新倉保

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1．教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
2．教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
3．教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
4．教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・毎年
5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6．学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・毎年
7．指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
8．今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年

1．教育の責任　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2026年4月

臨床検査技師学校養成所指定規則の教育内容のうち、「尿・糞便等一般検査」の分野を担当しています。臨床検査総論I、IIでは、一般検査領域の検査材料（尿、糞便、髄液等）を正しく取り扱う知識、検査技術、検査の基本的原理と臨床的意義について講義します。臨床検査総論実習では、臨床検査の基礎ともいえる「尿検査」や「髄液検査」などを実践し、検査手技を習得するための指導を行います。
医動物学・同実習では、各種寄生虫の形態と生活環、それらが引き起こす疾患の病態生理について講義を行います。さらに、座学と実習を通して各種寄生虫疾患の検査法、治療法、予防法について紹介し、それらを実践できるように指導します。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
医動物学・同実習	臨床検査技術学科	必修	2	84
臨床検査総論I	臨床検査技術学科	必修	2	88
臨床検査総論II	臨床検査技術学科	必修	3	104
臨床検査総論実習	臨床検査技術学科	必修	3	104
総合臨床検査学II	臨床検査技術学科	必修	3	105
総合臨床検査学III	臨床検査技術学科	選択	3	99
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	104
地球共生論	全学科	必修	1	283
労働生理学I	臨床検査技術学科	選択	4	6
労働生理学II	臨床検査技術学科	選択	4	8
卒業研究	臨床検査技術学科	選択	2	38
生体防御学特論	環境保健学専攻	選択	1	1

2．教育の理念　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2026年4月

育てたい学生像：学生が自ら考え、積極的に行動できるように育ってほしいと考えています。実現に向けて、まずは本学で学んだことを身に付け（知識の定着）、知識や考えを言語化できる能力を磨いてほしいと思います（表現する能力の向上）。また、失敗を恐れず、果敢に挑む精神を育んでいきたいと思います（想像力を育む）。
目指すもの：私が担当する医動物学（人体寄生虫学）は、日本では一般的に学ぶ機会が少ない分野です。実際に日本では寄生虫症は激減し、寄生虫の検査に関わらずに過ごす検査技師もいるかもしれません。一方、グローバル社会となった現在、外国人の訪日（インバウンド）が増加しています。海外では未だに寄生虫症が蔓延しており、実際に訪日した外国人の検査が増加しています。人体寄生虫学を通して、グローバル社会に対応できる検査技師育成に貢献したいと考えています。

３．教育の方法　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2026年4月

「知識の定着」　講義では最新の情報をまとめ、項目立てて話すことで理解しやすくするよう工夫します。また、スライドはできるだけ図や写真を使うようにし、復習しやすい資料を提供できるよう努めます。効率的に知識を定着させるため、学んだことをアウトプットするアクティブラーニング形式の講義や実習を展開していきたいと考えています。
「表現する能力の向上」　伝えたいことを的確に伝える能力は、あらゆる分野で必要不可欠となりつつあります。実習では、観察した結果などを発表することで、自らの考えを言語化する能力を育みます。卒業研究では、論文や発表スライド作成のための基礎技術、論理的な発表方法を学生に伝えることで、学生の「表現する能力の向上」に貢献したいと考えています。
「創造力を育む」　新たなことに取り組む際には、失敗を恐れず挑戦し、失敗を繰り返さないように創意工夫をすることで初めて結果が得られます。すなわち、失敗から学ぶことは、挑戦する勇気を育み、問題解決能力を身につけるために有用であると考えます。実習や卒業研究では、学生の個性を尊重しながら学生の失敗に真摯に向き合い、学生とともに失敗を克服するための創意工夫をすることで、学生の「創造力」を育んでいきたいと思います。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組　有

毎回の講義で小テストを実施し、小テスト終了後に学生が自ら解説を作成することで知識の定着を図ります。
医動物学・同実習では、配布された検体に対して適切な標本作成法を選択し、検体中の寄生虫を検出・同定します。同定に至った根拠を発表し、学生間でディスカッションすることで表現する能力を身に付けます。

（2）ICTの教育活用　有

医動物学・同実習では、バーチャルスライドを活用することによって、生きた寄生虫の動きや形態を観察できるように工夫しています。

４．教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

（１）教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

講義では最新の情報をまとめ、項目立てて話すことで理解しやすくするよう工夫しました。また、スライドはできるだけ図や写真を使うようにし、復習しやすい資料を提供できるよう努めました。

（２）学生の理解度の把握

A

ポータルシステムを介して小テストを実施することで、個々の学生の理解度を把握し、必要に応じて補足説明しました。

（３）学生の自学自習を促す工夫

A

講義ごとに実施した小テストをまとめ、冊子で配布しました。この冊子には解説が記載されていないため、学生が苦手とする項目や問題について自ら調べ、冊子に手書きで記入します。このアクティブラーニングによって自分専用の対策ノートを作成することで、学習効果を高めました。

（４）学生とのコミュニケーション

A

質問に答えるだけでなく、声掛けをして理解が不十分な学生がいた場合は、補足説明しました。

（５）双方向授業への工夫

A

小テスト終了後に学生が自ら解説を作成することで知識の定着を図りました。実習では、観察した結果などを発表することで、自らの考えを言語化することで更なる知識の定着と表現する能力の向上を目指しました。

（6）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

講義では最新の情報をまとめ、項目立てて話すことで理解しやすくするよう工夫しました。また、スライドはできるだけ図や写真を使うようにし、復習しやすい資料を提供できるよう努めました。
講義ごとに実施した小テストをまとめ、冊子で配布しました。この冊子には解説が記載されていないため、学生が苦手とする項目や問題について自ら調べ、冊子に手書きで記入します。このアクティブラーニングによって自分専用の対策ノートを作成することで、学習効果を高めました。

5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

（1）授業評価アンケート結果の授業への反映

批判的な意見はなく、講義スピードなどもちょうど良いとことなので、このままの形式で継続していく予定です。

（2）（1）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

学生からは批判的な意見はありませんでした。

（3）（2）を踏まえた次年度の取組

講義のブラッシュアップをして、より分かりやすい授業を展開できるよう研鑽を続けたいと思います。

6．学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

（1）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

臨床検査技術学科の3年生や4年生に講義する際には、2年生で履修した科目の内容について触れつつ講義をすることで、知識の定着を図りたいと考えています。
また、2年生または3年生で配布した「小テストのまとめ」の冊子を、国家試験受験の時まで継続して利用してほしいと考えています。

（2）（1）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

上記についてまじめに取り組んでいた学生は、定期試験でも高得点を取ることができているため、この授業資料や冊子を活用した取組は継続していく予定です。

7．指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

積極的に参加し、自分の講義等の改善のための参考にしました。

8．今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

講義・実習：学生授業評価は良好でしたが、より学習内容が定着するように講義の質を高めたいと考えています。
卒業論文：学生が積極的に卒業研究に取り組める環境や雰囲気を整えていきたいと考えています。そのためには、まず研究というものはとても身近なものだということを知ってもらう必要があります。そこで、衛生学研究室では、学生の学会への参加や外部講師による研究室内でのセミナーなどを企画しています。今後もこれらの活動は継続し、研究の楽しさを知ってもらいたいと考えています。

9．ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2026年4月

シラバス、小テスト、試験問題、配布資料、授業評価データ